

はじめに

昨年度の第4回海外調査は、今後のバイオマスの利活用の推進に関する国家戦略が策定されたことを背景に、バイオマス利活用技術の開発がさかんなベンチャー企業等が多い、カナダのバンクーバー地域を調査した。

今年度の第5回海外調査は、廃棄物処理のPFI事業で先行している台湾の現状と将来展望を学び、今後の日本のPFI事業の推進に役立てることを目的として、調査団を派遣した。

調査団としては、タクマの玉出実行委員長を軸にタクマ台北支店長の元田さん、荏原開立社長の荘さんをはじめ、現地関係者の絶大なるご協力を得て、有意義な訪問先を選択出来たと思っている。

調査団は、10名で編成され、平成16年9月22日（水）成田を出発し、9月26日（日）帰国という4泊5日の短い期間ではあったが、団員の皆様のご協力により、訪問先での活発な討論も出来、有意義な視察が出来たと思っている。

詳細な報告については、各訪問先の担当執筆者にゆだねるとし、以下に概要を述べる。

9月22日（水）混雑した台北空港に定刻に着いた。両替を済ませ、最初の訪問先である、ごみ焼却プラント運営会社の達和環保服務股份有限公司を訪問した。

社長をはじめ8人が、我々を迎えて、達和の設立経緯、台湾におけるごみ焼却プラントのBOT／BOOの約10年の変遷について、詳しく説明をうけた。

9月23日（木）は、午前中、台湾行政院環境保護署（EPA）を訪問した。

EPAから陳廃棄物管理處長他11名も出席があり、会議室は日本側10数名と合わせて、一杯となった。多忙にもかかわらず、處長をはじめ、沢山の出席を頂き、有難かった。現地関係者のご支援に感謝したい。

陳處長から台湾における、一般廃棄物排出量と処理状況、産業廃棄物排出量と処理状況、BOT／BOOプロジェクト状況など説明をうけた。

日本では、各担当者が説明する細かい数値まで處長自らが説明され、少なからず驚いた。

9月23日（木）午後は、達和が運営している嘉義の鹿草ごみ焼却プラント（公設民営）を見学した。嘉義は、台北から国内線で約1時間のところにある。ところが、台北－嘉義空港往復で大幅な遅れが出て、ごみ焼却プラント工場側にも迷惑をかけたが、台北で予約されていた、夕食の場所までも変更を余儀なくされた。

工場内は、ちり一つ落ちてなく清掃されており、維持管理が徹底されていることがうかがえた。

SPCの仕事は、ごみの受入・処理、主灰・飛灰の指定場所への運搬まで含んでいた。

9月24日（金）は、午前中、台北市工務局衛生下水道工程処を訪問し、又隣接地にあり、地上が公園になっている地下下水処理場も見学した。

荏原の荘さんが前もって色々、交渉して頂いていたので、歓待を受け、質疑応答も活発になされ、現地もていねいな案内をうけることができた。

公共下水処理の普及率は、11%とまだ低く、下水道処理プラント建設は86ヶ所が計画され、内16ヶ所は完成し、70ヶ所は建設計画中で、内36ヶ所をPFI方式で計画しているとのことである。

午後から、最後の訪問先である内湖下水処理場を訪問した。風通しが悪く、むし暑い広い処理棟内であったにもかかわらず、処理場の担当者から工程順に、ていねいに説明を受け、団員との活発な質疑応答もあった。水処理専門の団員も満足できる視察だったと思う。

さて、台湾政府もやはり財政が逼迫した、1995年頃より、PFI方式による廃棄物処理施設を推進してきたようである。

ごみ焼却施設は、既に処理能力が、ごみ排出量をオーバーする位整備されており、今後は新設の焼却プラントは不要と考えられる。下水道処理は、これからPFIで整備していく計画の様である。

我が国においては、平成11年（1999年）9月にPFI事業促進法が施行され、PFI方式による廃棄物処理施設の整備の推進が図られているが、今回の調査において先行している台湾においてのPFI事業の経緯、現状等から、日本において今後、PFI事業を推進する上で、多くの成果があったと思う。

今回、特にトラブルもなく、団長としての務めを果し、帰国出来たのもひとえに、長田副団長、玉出副団長、団員の皆様又事務局のご協力の賜と深く謝意を表す。

最後になるが、現地のタクマの元田さん、荏原の荘さん、川重の古城さんには、ご多忙の中、絶大なるご支援、ご協力を頂いた上に、美味しい夕食会場のアレンジまでして頂き、ここに厚くお礼を申し上げたい。

団員の皆様、ご協力いただいた現地の皆様の今後の益々のご健勝とご活躍を祈り、挨拶に代える次第である。

社団法人 日本環境衛生施設工業会
国際環境整備研究委員会 委員長
調査団 団長 萩原 均